

第2回

学校教育審議会専門部会 (学校の在り方・適正配置) 会議録

交野市教育委員会

1. 開 会 令和元年10月8日（火） 午後4時
2. 閉 会 令和元年10月8日（火） 午後5時
3. 出席委員 村橋 彰部会長、加藤 勤委員、市岡 伊佐男委員、田中 剛委員、清水 崇之委員、楠田 昌弘委員、中原 祥行委員
4. 事務局 大湾 喜久男教育次長兼教育総務室長兼学校教育部長・和久田寿樹学校規模適正化室長・竹田 和之生涯学習推進部長・内山 美智子学校教育部付部長・本多 章博生涯学習推進部次長・佐竹 利和教育総務室長代理・殿山 泰央学校規模適正化室長代理・木村 浩之学校管理課長・福田 美樹社会教育課長・仁木 裕美学校規模適正化室課長代理・吉野 絵美子学校規模適正化室・上野 舞学校規模適正化室
5. 案件事項 1. 交野市立第一中学校区の学校の在り方について
2. その他
6. 議事内容
- 部会長 定刻となりましたので、ただ今から、交野市立第一中学校区の学校の在り方、交野市立第三中学校区及び交野市立第四中学校区の学校の適正配置の方向性について審議する第2回の専門部会を開催いたします。
- 次に、本日のこの会議ですが、交野市会議の公開に関する指針に基づき、公開にしたいと思いますが、ご異議ございませんでしょうか。
- 委員 異議なし
- 部会長 それでは、異議なしということですので、公開にしたいとおもいますが、本日傍聴はございますでしょうか。

事務局

ございません。

部会長

本日は傍聴希望がありませんので、このまま進めてまいりたいと思います。

前回の審議会では、第一中学校区の学校の在り方として、施設一体型小中一貫校の整備に関する検討を行う「第一中学校区における魅力ある学校づくり協議会」の第1回から第3回の報告を受け、工事期間中に児童生徒が学ぶ教育環境として望ましい校舎配置について、委員のみなさまに様々なご意見をいただきました。

本日は、前回に引き続き、工事期間中に児童生徒が学ぶ教育環境として望ましい校舎配置について、9月25日に開催されました第4回地域協議会までの意見内容を踏まえ、委員から多くのご意見をいただきながら、審議を進めたいと思いますので、よろしくお願ひします。

それでは、案件（1）「交野市立第一中学校区の学校の在り方について」、事務局から地域協議会の進捗も含めて説明を受けたいと思います。

事務局、説明をお願いします。

事務局

はい。それでは説明に先立ちまして、配布資料の確認をさせていただきます。

参考資料.8として、かたの あしたのがっこうしんぶん

学適 参考資料.8-1 かたの あしたのがっこうしんぶん Vol.3

学適 参考資料.8-2 かたの あしたのがっこうしんぶん Vol.4

参考資料.9 第1回から第4回の取りまとめ

学適 参考資料.9-1 新設校舎整備参考資料（A-①、A-②、B、C-①、C-②（5案）一覧）

学適 参考資料.9-2 地域協議会で出されたプランごとのメリ

ット・デメリット

学適 参考資料.9-3 地域協議会で出されたプランごとのデメリットの解決策（案）

となっています。過不足等ございませんでしょうか。

それでは、案件（1）「交野市立第一中学校区の学校の在り方について」について地域協議会の進捗状況と併せて説明させていただきます。

はじめに、前回までのおさらいですが、第一中学校区では施設一体型小中一貫校の整備に向け、今年度から「第一中学校区における魅力ある学校づくり事業」をすすめています。地域に開かれた施設一体型小中一貫校という、これからの新しい学校づくりに向けて、工事期間中の児童生徒の教育環境はどうするのか、仮設校舎や通学路などはどうするのか、といった課題と、その解決方法を検討するための一中校区関係者による「地域協議会（通称1年1組）」、地域とともに小中一貫教育を実践するための施設一体型小中一貫校の整備において必要な機能を検討する「教職員協議会（通称1年2組）」、地域と協力した学校運営の在り方を考える「みんなでやってみよう科（通称1年3組）」の3つの話し合いの場を設け、学校関係者や地域の方、保護者や様々な団体の方など、今後新しい学校に関わりのある方々からご意見をいただきながら、課題の解決方法や施設整備の検討をすすめています。

そのうち、地域協議会ワークショップ（以下、「WS」という。）では、7月12日（金）に第1回を開催し、あたらしい学校づくりに向けて、これから進めていく地域協議会の話し合いで大切にしたい視点を話し合い、「大切にしたい5つの視点」としてまとめました。

1. 子どもたちがしっかり学ぶことができる！

学力をあげることも大切だけど、地域の自然や文化のこと、人間関係、感性も学べる学校

2. 子どもたちと地域の安全、安心を守る！

学校施設のセキュリティ、登下校時の安全を地域でも見守る、災害時には防災拠点にもなる学校

3. 地域の人たちも通える！

地域の人たちが日常的に学校に行き、子どもたちとの接点になる学校

4. 先生たちの負担を減らす！

毎日とても忙しい先生たち。地域の人材を積極的に活用する学校

5. 交野の魅力づくりにつなげる！

学校自体が交野市の魅力になること、交野の魅力を子どもたちも発信する学校

以上の5つの視点で、新しい学校づくりの話し合いを進めていくことになりました。

8月7日（水）の第2回地域協議会 WS では整備期間中の教育環境について、A-1 案、A-2 案、B 案の3案を事務局より提示し、それぞれのメリットデメリットを話し合うとともに、地域協議会に参加された方が各自で考えた新たなプランである C 案が各班で提案されました。

8月29日（木）の第3回では、地域協議会 WS の参加者から提案があった各自で考えた新たな C 案のうち、実現の可能性があるものを C 案として、前回の地域協議会で提示した A-1 案、A-2 案、B 案の3案と同様の資料を作成し、「デメリットを解消する方法を考える」として、各プランのデメリットごとに、どのような解決策があるのか、自分たちにもできる取組みアイデアを出し合って検討いただきました。

ここまでが、前回の審議会部会でご報告させていただきました「地域協議会 WS」の第1回から第3回までの途中経過です。

ここから、先日9月25日（水）に開催いたしました第4回地域協議会WSでは、「デメリットを解消する方法の実施主体を考える」をテーマとしてご検討いただきましたので、その内容をご報告いたします。

第4回では、前回の話し合いの結果を踏まえて、①登下校の安全の確保（見守り）②登下校の安全の確保（交通手段）③通学路の経路（交野小学校へ行く経路）④通学路の経路（長宝寺小学校へ行く経路）⑤通学路の経路（第一中学校へ行く経路）⑥C案のメリット・デメリットの6つのテーマ別にテーブルに分かれて話し合い、デメリットを解消する方法の実施主体について、行政がやること、地域がやることに分けて意見を整理しました。

また、お住まいや関係する地域別に、5つのテーブルに分かれて「地域協議会で出された地域や自分たちでできるデメリットの解決方法」についての意見を踏まえ、既に地域で実施しているものなどを出し合っていました。

それでは地域協議会第4回WSまでの取りまとめの資料をご説明いたします。学適 参考資料9-1「新設校舎整備参考資料」をご覧ください。こちらにはA-1案、A-2案、B案、C-1案、C-2案の5案の記載があり、工事期間中の児童の生活環境については、大きく分けてA案、B案、C案となります。

A案は、現在の交野小学校敷地に交野小学校の児童が通学し続けながら、交野小学校に新築校舎を建設する案です。A-1案は南側の現在のグラウンド部分に仮設校舎を建設し、北側に新築校舎を建設する案で、A-2案は北側の既存校舎を使用しながら、南側の現在のグラウンド部分に新築校舎を建設する案になります。

B案は、交野小学校の児童も長宝寺小学校の児童とともに長宝寺小学校敷地に通学し、交野小学校に新築校舎を建設する案になります。

C案は、第一中学校の敷地に仮設校舎を建設し、交野小学校に新

築校舎を建設する案で、C-1 案は、第一中学校の仮設校舎に交野小学校の児童と長宝寺小学校の児童が通学する案、C-2 案は、第一中学校の仮設校舎に交野小学校の児童が通学する案となっています。

地域協議会 WS の第 1 回から第 4 回までを通して、工事期間中に児童生徒が学ぶ教育環境として望ましい校舎配置を検討し、A-1 案から C-2 案までの 5 つのプラン案について、地域協議会で出た各プラン案のメリット・デメリットをまとめたものが学適 参考資料 9-2「地域協議会で出されたプランごとのメリット・デメリット」になり、そのデメリットの解決策をまとめたものが学適 参考資料 9-3「地域協議会で出されたプランごとのデメリットの解決策（案）」になります。

各プラン案のデメリットについて、通学路に関して懸念される意見が多く上がっており、また、その課題における解決策についても多くのご意見をいただきました。

課題における解決方法の実施主体については、児童見守り隊を結成することやボランティアによる見守りといった地域が主に取り組みを検討することの他、通学専用道路の整備や、不審者対策として防犯用カメラを設置するなどといった、行政や学校が主に取り組みを検討することなどが分けられて列挙しています。

つぎに、前回の審議会部会にて仮設校舎がどのような仕様となるのかが分からないため、最近の仮設校舎の参考画像等を示してほしいとのご要望がございましたので、枚方市立第一中学校の施設改修の見学に行かせていただいた際に撮影しました仮設校舎の写真を参考にご覧いただきたいと思います。

それでは、正面のスライドに映し出しておりますので、ご覧ください。

左上の写真は仮設校舎外観の写真となります。参考までに、仮設校舎の工事期間は舗装・仮囲いの工事を含めて約 5 か月、うち建

設工事は約3か月半です。こちらの仮設校舎は2階建てとなっており、普通教室10室の他に配膳室が1室、倉庫が2室、家庭科室1室、被服室1室、音楽室が2室でそれぞれの特別教室に準備室が設けられています。

右上の写真が下足室、左下の写真が廊下、右下の写真が教室外となっています。

この「学校の在り方・適正配置」専門部会では、まず、第一中学校区の学校の在り方として、工事期間中に児童生徒が学ぶ教育環境として望ましい校舎配置について、A-1案からC-2案までの5案について、地域協議会WSでの意見の取りまとめを参考としてご審議をお願いいたします。

案件（1）「交野市立第一中学校区の学校の在り方について」地域協議会での経過報告を含む説明は以上となります。

部会長

ありがとうございました。

説明がありましたとおり、工事期間中に児童生徒が学ぶ教育環境として望ましい校舎配置のA-1案からC-2案までの5つのプラン案について、メリット・デメリットを地域協議会でまとめ、検討いただいたとのことでした。

これらの地域協議会で検討した意見を踏まえ、委員のみなさまからご意見・ご質問などがあればお伺いしたいと思いますが、先ほども事務局より説明のあった学適 参考資料9-1「新設校舎整備参考資料」に記載の5つの案について、その案ごとの特徴をもう少し詳しく事務局より説明いただくとともに、学適 参考資料9-2「地域協議会で出されたプランごとのメリット・デメリット」および学適 参考資料9-3「地域協議会で出されたプランごとのデメリットの解決策（案）」についても説明をいただき、それを踏まえて審議に入りたいと思いますが、委員のみなさま、よろしいでしょうか。

事務局

それでは会長よりご意見がありました新設校舎整備について、改めて詳細の説明をさせていただきます。学適 参考資料9-1「新設校舎整備参考資料」を再度ご覧ください。

A-1案、A-2案、B案、C-1案、C-2案の5案の具体的な特徴について説明いたします。

まず、工事期間中の通学距離に関しては、Aの2つの案は現在の交野小学校敷地に現在の交野小学校の児童が通学することから、通学距離に変わりはありませんが、B案・C案の2つの案になると通学距離が長くなる地域が出てきます。新校舎整備後はA-1案からC-2案ともに通学距離が長くなる地域が出てきます。

工事期間中の騒音・振動による学校への影響についてですが、工事期間中は、A-1案とA-2案の2つの案は、学習する児童と同一敷地内での新築校舎の整備工事となるため、騒音・振動の影響や、工事車両の出入りなどに対する注意が必要となります。B案とC-1案・C-2案の3つの案についてですが、B案は交野小学校の児童も長宝寺小学校へ通学し、Cの2つの案は第一中学校へ通学することとなるため、新築校舎の整備中の騒音・振動による影響はなく、また、工事車両の出入りなどに対する注意は必要ありません。

工事期間中の敷地周辺環境についてですが、整備期間中の校舎、グラウンド、体育館、プール等の使用に関しては、A-1案は、仮設校舎を交野小学校グラウンド（南側）に設置するため、新築校舎は北側配置以外に選択できなくなり、またグラウンド、体育館、プールは「いきいきランド交野」や「私部グラウンド」の施設を使用する必要があります。

A-2案は、北側の既設校舎を使用しながら、新設校舎を南側に配置、整備することから、南側配置以外に選択できません。グラウンド、体育館は「いきいきランド交野」や「私部グラウンド」の施

設を使用する必要がありますが、プールは既設の交野小学校プールを使用することはできます。

B案は、長宝寺小学校の施設を使用しますので、特別教室や多目的室、ランチルームや放課後児童会など、必要となる部分の面積だけ、長宝寺小学校の中庭に仮設校舎を建てて使用する必要があります。また、交野小学校敷地の新築校舎の配置は設計に応じて南側にも北側にも選択が可能となります。

Cの2つの案はB案と同様に、交野小学校敷地の新築校舎の配置は設計に応じて南側にも北側にも選択が可能となりますが、C-1案とC-2案ともに第一中学校のグラウンドに仮設校舎を建てて使用するため、小中学生のグラウンド、小学生用体育館は「いきいきランド交野」や「私部グラウンド」の施設を使用、プールは中学生用の既設プールを使用し小学生用の仮設プールを整備するか、あるいは「いきいきランド交野」のプールを使用する必要があります。

長宝寺小学校の小規模化についてですが、A-1案・A-2案・C-2案は、交野小学校敷地の新築校舎が開校するときに解消され、B案・C-1案は、工事着手と同時に解消されることとなります。

つづいて、工程及び工期・建設費についてまとめて説明いたしますと、A-1案とA-2案のこの2案は工事敷地内の工区を分けて施工することから工程が複雑になります。A-2案は、工事敷地内に仮設校舎がないため、A-1案よりも工期は短くなるものの、B案・Cの2つの案の3案よりも工事敷地内の工期は長くなります。

B案の長宝寺小学校の仮設校舎は、A-1案・C-1案・C-2案に比べ最少面積となり、仮設校舎の工期も最も短くなるとともに、工事敷地となる交野小学校敷地内の工期はC案と同様に最も短くなります。また、仮設校舎が最低限の面積で使用可能となるため、他の4案に比べて建設費が最も安価となります。

C案は、B案と同様に工事敷地内に仮設校舎が無いことから工程がスムーズになりますが、建設費は第一中学校のグラウンドに建設

する小学生用の仮設校舎を含むと高くなります。

工事敷地内の新校舎の最短工事期間は、概算で B 案・C 案が約 3 年、A-2 案が約 3.5 年、A-1 案で約 4 年となります。また、工事敷地外に仮設校舎を設置する最短工事期間は、概算で B 案が約 2 か月 C-1 案で約 5 か月、C-2 案で約 4 か月となります。

次に、工事期間中に児童生徒が学ぶ教育環境として望ましい校舎配置を検討し、A-1 案から C-2 案までの 5 つのプラン案について、地域協議会で話し合ったメリット・デメリットを取りまとめたものが学適 参考資料 9-2「地域協議会で出されたプランごとのメリット・デメリット」になり、また各プラン案のメリット・デメリットとデメリットの解決策をまとめたものが学適 参考資料 9-3「地域協議会で出されたプランごとのデメリットの解決策（案）」の一覧になります。黒字が行政で検討する解決策（案）、赤字が地域・保護者で検討する解決策（案）として記載しております。

学適 参考資料 9-2「地域協議会で出されたプランごとのメリット・デメリット」の各プラン案のデメリットについて番号を付けており、その番号に対応するデメリットの解消方法が学適 参考資料 9-3「地域協議会で出されたプランごとのデメリットの解決策（案）」のデメリット番号となっています。

特に、通学路に関して懸念される意見が多く上がっており、トレーニングパトロールの実施や老人会、自治会の協力を得て見守るなど児童見守り隊を結成することやボランティアによる見守りなど、地域が主に取り組みを検討する解決策について多くのご意見をいただいております。また、行政や学校が主に取り組みを検討することとして、通学専用道路の整備、工事期間中のいきいきランド交野・私部グラウンドまでの専用歩道の設置や、不審者対策として防犯用カメラを設置するなどといった解決策を列挙しています。

説明は以上になります。

部会長

ただいま事務局より、建設工事期間中の教育環境についての 5

つのプラン（案）と、そのメリット・デメリットやデメリットの解決策（案）について説明いただきました。前回のこの部会でも、B案が望ましいのではないかと意見が多かったと思いますが、今回の説明を踏まえて、再度委員のみなさまからのご意見を伺いながら、審議を進めたいと思います。委員のみなさま、ご意見等ございますでしょうか。

委員 長宝寺小学校の小規模化のところ、B案およびC-1案の備考欄のところ、工事着手と同時に長宝寺小学校の小規模化は解消される、とあるんですが、これはどちらの場合であっても小規模が解消されるというのは、この時点で交野小と長宝寺小がくっついて違う名前になるのか、もしくは片一方の名前になるんでしょうか。

事務局 そのあたりは、あくまで児童数と配置だけの話になりますので、長宝寺小学校の児童と交野小学校の児童が同じ敷地内に一緒にいるということで、児童数としての小規模は解消されます。
ただ、それを小学校統合するのか、分離するのか、あるいは、全く名前を変えるなどというのは、そこまではまだ議論は及んでいないところです。

委員 もし統合した場合には先生の数が変わってくることもでてきますので、2校が混在するということもあり得るというのは、これからの話ですか。

事務局 そうですね。

部会長 この時点で、今運営している会議でスタートするとかは一切ないということですか。

事務局 現時点ではまだです。
児童を一カ所にするだけで単学級を解消することが可能になる

のではないか、というところになります。

部会長

他にどうでしょうか。

委員

やっぱり新しく配置を考える場合に、児童の安全、建設費のコストの削減、新しい学校ができる時の工事の短さが一番大事なんじゃないかな、と思うんです。例えば、今地域で見守りをやってるんですけども、確かにたくさんの方が出てこられているんですけども、出てこられている方を常にきちっと配置して、ということがなかなかできないんです。今お母さん方にアプリを入れてもらって管理するとかいうかたちで、そこらへんもだいぶ機械がいるんですよ。

通学路の問題というよりもまず安全、ということで、子どもたちがプールや体育館を使うのにまた学校から出ていくという。一回みんなが学校に入って出席をとればその中で教育環境があって、また外に出ていくときは見守りも含めてやっていかなあかんということについては、安全面からいうとしんどいかな、と。移動中に事故が起こったりということもありますし。

メリット・デメリットと簡単に書いているようですけども、何を優先して整備するかというのが大事かと。安全とコストと期間です。新しく一貫校としてスタートするまでの期間が短いほうがいいかな、と思います。騒音とかそういうのもないし、別のところで工事をやられているということになれば、子どもも一生懸命勉強できる。

昔は交野に中学校が1校で、小学校がありましたよね。交野小学校と星田小学校の昭和34年卒業の同窓会をやるんですけども、結局それぞれの小学校におるときは、つながりないんですけども、一つの学校に行くことによって交野市内全体に同級生がおるということになれば、交野小の子どもたちも、長宝寺小の雰囲気も少し味わってもらって、長宝寺小の子どもたちは交野小をなかなか味わえないかもしれませんけれども、一緒に学ぶときに共通の話題

が少し増えたりするかな、というのはありますので。そこらへんも含めて、この前の第1回的时候にはB案がやっぱり安全も工期もコストも。やっぱり大きいデメリットもあるので、あくまでもそのデメリットをどう解決するか、ということで、地域が一体になってコミュニティもだいぶ変わってきますので。

例えば、長宝寺小校区の校区福祉委員会と交野小校区の校区福祉委員会というかたちで、合同で連携していろいろな行事をやっているかと思うんですけども、そこらでいくと、子どももそうですし、親御さんも連携してもらって、見守りもできるのかと思うんですけども。

部会長 他にどうでしょうか。

委員 他市で経験してきたことから考えると、統合・合併にしても一番だめだったのは、2つの小学校がひとつになるということで、計画の段階からそこに関わっていたんですけども、かたちの上ではひとつの学校のところに施設整備に重点を置いて、もうひとつの学校との統合を図るときに重点的に一方の学校の施設整備の充実を図って、最終的に統合するというパターンだったんですけども、1年間くらいすごく大変だったんです。何が大変だったかという、2つの学校の間あたりで学校ができるなら全く別の話なんですけれども、そうではなかったのも、やっぱりやらされてるという意識が一方の学校で生まれてしまって、これは仕方ないんですけども、元々の学校にそのまま通っている子にとっては全く環境的に多少校舎の配置が変わったりとか子どものメンバーが変わるということはあるけれども、通学路は変わらない、通学距離も変わらない、全く同じ条件で行けるけれども、もう一方の学校の子にしてみたら、通学距離は長くなる、通学路も途中から変わる、そういうことになる。そういう状態の中でまた教育環境も変わる。

どれだけ理屈でそのための一緒になる、行動する時間とか設けて、いろいろな学年で取組みとか、あるいは中高学年と合同で行事

なんかをしたりという。すごく段階を踏まえてやってきているけれども、1年経ってもきれいに解消できたかな、という感じです。当初はかなりぎくしゃくしてました。

一番いいのは、どちらにも影響しないところに新しい学校ができたらいいかな、と思います。経験としてそう思います。偏ったところで、一方のところから通わされるという、そんな言い方もしないし、そんなかたちをとらないけれども、結果的にそういうふうになってしまうのは、とてもしんどいですよ。それを解消するためにだいぶ時間をとられます。これは経験上なんですけども。全く等距離というわけにはいかなかったとしても、両方が同じような条件で統合とか合併をしていくのが正しいのかな、と思います。経験上そう思います。

部会長 他にどうでしょうか。

委員 仮設校舎を建設するときの問題点というのは、ここには挙がっていないと思うんですけども、そのへんはどのように考えておられるのかと思って。今委員がおっしゃられたように、第三者というか、更地のところにつくることができるのか、新しい学校をつくる時にどの学校にも影響が及ばないという議論かと思うので、そのへんも踏まえて、仮設校舎を建てる時のデメリットというのを教えていただければ、と思います。

事務局 事務局としましては、仮設校舎も含めて期間が長ければ、それだけ建てられる敷地に通う児童生徒に影響が出るものと考えています。最短工期で、B案であれば2か月、C-1案であれば5か月、C-2案であれば4か月、ということになってきます。

 ということは、C-1案であれば3年5か月間、新築工事プラス仮設校舎の期間はここのグラウンド用地は第一中学校の生徒は使えないという影響が出てきます。C-2案であれば、3年4か月間になります。ですが、B案であればグラウンドではなく中庭か点線

囲いの内側の一部に放課後児童会や特別教室やランチルームなどの入りきらなかった部分に仮設校舎として整備することになるので、さほど大きい仮設校舎を建てることにはならないので、最短で概ね 2 か月程度でいけるのではないかと考えています。そうすると、夏休みなどを利用すれば大きく影響は出ないのかな、というふうには考えているところです。

ただ、どれを選択されるかというのは、みなさんの意見を頂戴しながら決めていくことになるかと思います。

部会長 子どもの動線を考えても、中庭のスペースが大小によっても変わるんですけども、もし中庭にプレハブを建てられるとしたら、子どもの動線を考えたら、例えば渡り廊下でつなげられるとかいろいろなメリットはあると思うんですけども。

事務局 何よりもグラウンドが阻害されないという部分では非常に大きなメリットがあります。やはり中庭にある樹木を伐採したりとかいうことになりますので、そういったところではデメリットが全くないわけではないです。ただ、北校舎と南校舎の間を渡り廊下で、部会長がおっしゃられたように、出入りができるような出入口がつけられるのであれば、なおさら仮設校舎としてはメリットが高いかと思います。

部会長 教育委員会の経験で言わせてもらったら、塀に沿ってぐるっと回らないといけないというのが、それが子どもの移動に時間がかかったというのが。ですから、どの場所にプレハブを建てるかということになってくるかと思います。そういうこともあったので。校舎の使用にとってすごく手間と時間がかかってしまうような工事もあったので。

他にどうでしょうか。

委員 A-1 案、A-2 案というのは、新校舎が南側か北側かということ

ですが、これによって校舎のデザインが変わるんですか。

事務局 出入口が変わります。一般教室というのは、南向きに採光用の開口部を取りますので、北側に寄せるか南側に寄せるかということでプランは大きく変わります。

委員 中学校で職員をしていますが、よく耐震工事とか他の学校で建替えをしているところにおじゃますることもあるんですが、そういった時に、普段何気ない話で、何が困りますか、と聞かせてもらうと、よそへ出ないといけないことに時間を割かれる。例えば、C 案の場合であれば、先ほどからあるように校外へ出ないといけない。そうすると、それだけで移動時間がとられて結果的に授業にすごく影響が出たりとか。クラブ活動についても、中学生が十分な活動をすることができないとか、自分が体験してたり、他のこれまでお話してきた先生方のご意見があったので。子どもたち自身もそこでなかなか落ち着かないというのもあったりしたので。

今のような A 案のような建てた位置によって変わるというのであれば、やはり工期が短いということであれば、子どもたちに影響を与える時間が一番短いのかな、と本当に思うので。どの案をとったとしても通学路に関しては変更はどうしても出てくる部分はあるのであれば、ここは B 案の方が一番現実的なのかな、子どもに与える影響が少ないのは B 案かなと感じました。

委員 この適正配置とかメリット・デメリットを検討するまでに、交野の学校全体で適正化・適正配置について、ということで、はじめの教育長のあいさつのところにもありますように、平成 31 年 2 月に適正化基本計画の中で、現在の交野小学校の中にそういうかたちで新しく一体型の校舎を設けるとなれば、基本的にはまず検討する課題として、今我々がやっている部分を解決しないと、交野小学校敷地に一体型一貫校を建てるという結論に至るとい、おっしゃるように、その中間地に用地を確保して行った方がみんながいいじゃ

ないか、ということや新しいところのコミュニティができるという検討もされて交野小学校に施設一体型の学校を建てるとということが決まった経過というのを、それをまたここで同じように一体型になったらどこが悪いのか、というようなことを検討するんだったら、これは検討した結果で、交野小学校に一体型に施設を建てるという結論が出たんじゃないかな、とそんな感じです。

決めたことをもうちょっと違う方面からメリット・デメリットをやるというかたちで、やっぱり子どもの安全とコストと早いこと一体型の学校で一日も早くコミュニティがスタートするというのが大事かと思うんですけども、ちょっと今この「かたのあしたのがっこうしんぶん Vol.4」のあいさつの部分を読んでたんですけども、もうすでに交野小学校の敷地に施設一体型の施設を建てるのが前提で決まっています、適正配置・適正化についてはそれが決まった上での論議を進めていっているということを書いているので、それも含めて、この問題でいろいろ突き詰めていくと、違うところに施設一体型の学校を建てるという答えができるなら一番それでいいと思うんですけども、3つの学校のどこかを選んで一体型の施設を建てるとなれば、交野小学校のところです、というかたちはコンセンサスを得たうえで、前提条件はそれでいろいろと論議をすすめていくというのが、建設的で前向きかな、と思うんですけども。

私は三中校区なので、一中校区は交野小学校の敷地に一体型の学校を建てるというかたちで、地域協議会もやられて。みなさんがそのことを認識したうえで、当然その長宝寺小の人は新しい通学路になるし、いろいろと通学路も変わるし、通学環境も変わる。それがメリットかデメリットかというのは、これから大人になっていったら、いろんな場所に行きますよね、初めての買い物じゃないけど、いろんな所にいって成長していくから、全く同じところじゃないとだめだということもないので。それをどうやってバックアップするかというのが大事だと思うんですけども。

初めに交野小学校の場所に施設一体型の一貫校を建てるとということが決まった時点で、ここらへんの問題は少々は出てくるけれど

も、何を主にすすめていくかということ、きちんと納得しておいてもらわないといけないかなと。

交野市の他の審議会でも、新しい土地は買いません、そうだけでも、これは絶対に廃止していつまでに持って行かないとあかん、というのがあつたんですけども、前提条件とか底辺にある条件があつたうえでものを考えると、どうしても別のところだったらいいな、というようになるのかなと。私は論議をどういうかたちで進めていくかというのが必要な、と思うんですけども。

部会長

学校教育審議会で、第一中学校区は交野小学校敷地に、という流れでつくっていったと。そういう中で、地域からのご意見もいろいろな角度で出てきて。そういう中で当審議会、専門部会もありますけれども、工事も考えて、検討する中でやはり、今いただいている意見だったら B 案でいくんだ、という、工事期間中は、単学級の解消も含めて、長宝寺小学校と一緒に、という流れでいくというこの問題は、今進めているのは、学校規模に関することと工事のことが一緒になっているので、市民から出る意見も多方面からの意見が大事になってくる。しかし、今委員がおっしゃられたように、方向が審議会としてはこれでいくんだ、というのができていると。工事に至っては、再度いろんな意見も出てくる中で、B 案でいくんだという再確認も含めて、すすめさせてもらって、案も出させてもらったらと思うんです。それでいいでしょうか。

事務局

部会長がおっしゃっていただいたのと、委員からもご意見いただきましたように、交野小学校敷地に施設一体型の小中一貫校を整備するという事は決定事項になります。当然、そこまでにご審議頂いた内容も踏まえてすすんでいくんですけども、その間で、様々な建設のやり方がある中で、やはりどれが一番望ましいのかということ、ところをみなさんから意見を頂戴しながら、通学距離が伸びるということに対して懸念を持たれている保護者の方が多いということもありますので、それらの部分についてもみなさんからご意見を頂

戴しながらすすめているところです。

先ほど会長がおっしゃられた、前回の部会では B 案が望ましいというお声を頂戴していたんですけども、すべて再度 C-2 案まで詳細に説明させていただいて、今回再度ご審議いただいたのはそういうところになります。

ですので、そういったご意見を頂きながら取りまとめる方向にさせていただければ、と思います。

委員

いろいろな心配があるし、サポートは絶対に必要なので、学校の立場としては、やはり授業に一番支障が少ないのがベターかな、と思います。そういう面で言ったら、今いろいろ意見が出てるように、B 案が一番授業に支障が出ないかな、というのは、期間も短いですし。

以前二中に勤務していた時に、耐震工事を 3 年間やっていたんです。毎年夏休みに主にやっていて、大変でしたやっぱり。今年は職員室、次は理科室、次は…という具合に。例えば、職員室とかそのフロアをやった時は、職員室は会議室で、会議室も物置状態で。夏休みは本当に大変だったのを覚えています。

そういう意味で言えば、期間も短い方がいいですし、そこの移動であるとか、そういったところに影響がないのが一番かな、と思います。

確かに、委員がおっしゃったように、交野小の子どもさんにすれば、一時にしろ間借りになりますから、子どもさんもそうだし、保護者もそうだし、地域もそうだし、やっぱり我慢しなければいけないことが多くなるのかなというのはありますが、それも含めてサポートをできるだけできるものはさせていただいて、学校も努力して、というかたちでなんとか凌いでいけたらな、というのは思いますが。

委員

私も今委員がおっしゃったように学校の立場として、グラウンドが中学校で制限されるとなると、子どもたちに我慢してもらわ

ないといけないことが増えてくるかな、というのと、以前第一中学校に勤務していたこともありましてので、裏の私部グラウンドを利用したらいいじゃないかというお声は、非常によくわかるし理解できるんですけども、やはりそこへ行くまでに危険を伴うところもありますし、裏道が獣道みたいなところもあるので、いろいろと問題も出てくるかなと。

いち教員の立場として、学適 参考資料 9-3 のところに、B案のところにはトレーニングパトロールの実施ということで、第一中学校の部活動のクラブのトレーニングを兼ねて中学生が小学生の通学路を走るというのを想像していたんですけども、長宝寺小学校を利用すると、第一中学校から長宝寺小学校までの間をクラブの生徒がパトロールを兼ねて走るというのを想像してみたら、歩道もあまり整備されていませんし、途中に子どもたちの興味関心を引くものが多くあるとなりますと、結局学校の方にまたあれを触った、こうした、石を投げたなどの苦情が出てきて、それを教員が対応に走るとなると、これが非常に多く書かれているのは逆に教員の負担をどんどん増やしていくかたちになるな、というのを心の中で思っていたことです。

もう少しこういうあたりの部分が解消されていけばな、というふうには思いました。ただ、みなさんがおっしゃられるように、B案が私としても中学校の負担は多少減るのかな、というかたちで考えています。

部会長

いろいろご意見を出していただいたんですけども、B案が工事期間中に児童生徒が学ぶ教育環境として望ましい校舎配置としての意見が多くあったと思います。中間答申の内容に盛り込む方向で審議内容をまとめていきたいと思いますが、委員のみなさんよろしいでしょうか。

委員

はい。

部会長 地域協議会で検討されて出された意見の中で、工事期間中に児童生徒が学ぶ教育環境として望ましい校舎配置について、先ほどもありましたけれども、通学距離が長くなることに対するご意見が多く挙げられています。こちらについては、配慮が必要な項目と考えるんですけども、先ほど委員からも意見をいただいているんですが、他にもご意見をいただきたいと思いますと思うんですが、どうでしょうか。

委員 具体的に通学路の状況がわからないんですが、そのへんのイメージがつきにくいかな、と思います。

事務局 全部が全部イメージされるというのは。

委員 道の狭い広いとか、交通量とかがイメージつかないと、距離だけでは意味がないのかな、と。先ほど歩道がないところもあると言われているので、そういうところは考えていかないといけないかな、と。ストリートビューで見せてもらえたらある程度。

事務局 旧私部の地域は歩道がなく、道幅が狭い道もございます。ただ、狭いか広いかという狭いんですけども、逆に交通車両が少ないという、メリットになるかデメリットになるかはわからないですけども、そういったこともございます。また、広い道を通るとなると、広い道でも歩道が整備されていないところもあれば、されているところもございますので、旧来の私部の集落であれば、星田の村中と同じようなイメージになります。

それ以外の新興住宅街になると、4mか6m以上、歩道のない幅の広い道路が整備されているというようなところが通学路になってくるのかな、というところです。ただ、幹線であっては、大きな道路より歩道があったりなかったりというところもがございます。

部会長 距離だけではなくて、というそこですね、ポイントは。

事務局

距離だけではなくという部分につきまして、地域協議会で出された中でも、行政が対応する部分として、道路の拡幅であるとか歩道の整備など、通学路の何らかの整備が必要なんではないか、という行政が対応する部分を検討していく内容についても、ご意見として頂戴しております。また、逆に先ほど委員がおっしゃられたように、第一中学校の運動部だけではなく、トレーニングを兼ねてパトロールをしたらどうか、とか散歩をするのを、83（はちさん）運動と言うんですか、朝の8時、夕方3時、夕方5時に地域の方が外に出ることで見守りの目になるんじゃないか、とか、あるいは老人会、自治会が連合して地区で工夫してやりながら見守りをしてはどうかという、地域の方々が解決できるであろう課題の解決策というのを一覧の中に入れていっているところです。

ですので、一概に通学路の状況についても、距離という話はあるんですけども、右の道を通るのか左の道を通るのかということは今後歩いて整備の用意も含めて検討していく必要があるのかな、というふうには考えています。

部会長

他にどうでしょうか、通学距離に関してということ。委員どうでしょうか、登下校ですごくいろいろ見ておられますけれども。

委員

やっぱり、今更ながらあえて言いますけれども、都市計画に基づいて整備されていないでしょ。開発の時にね。今現在の開発でもそうですけれども、もうちょっとまちづくりを、道路整備も含めて行政側が主導してやるようなことをしてなかったつけが今来てるんじゃないかな、と正直に思うんです。

それを新たにいろんなところで、例えば通学路を整備するという、例えば拡幅なんかになってきたらまた、そんな簡単な話ではないでしょう。旧集落のところはどうやって拡幅するんだという話も考えられるし。ちょっと大変だと思いますね。

お金がいくらでもあるんだったら、また発想は違いますよ。財政が厳しいというのを一方では言われながら、正直大変だと思います

す。

部会長

他にどうでしょうか。通学距離が長くなることに関して配慮が必要なんだというご意見が多い中で、配慮が必要だという内容を付帯意見として中間答申に追加する方向で、当部会としても子どもの安全、見守りを考えたら非常に大事な問題だということでもとめていきたいと思っているんです。

今もありましたけれども、通学路の歩道整備、あるいはカメラの設置など通学路の整備に関してご意見を多く挙げられたということなんですけれども、これらについては今回の諮問案件(1)の「交野市立第一中学校区の学校の在り方」として、当審議会で扱うというのは難しく、他部署の案件になると思われまますので、事務局より関係部署と協議をしていただくということですすめていって、お願いしたいと思えますけれども、委員のみなさんどうでしょうか。よろしいでしょうか。

委員

はい。

部会長

では、そういうかたちでお願いしたいと思えます。では、他にご意見等ございませんでしょうか。

今後の通学路、歩道の整備については、事務局から関係所管との協議をお願いするとのことで。

審議内容を踏まえて、次回の審議会の部会におきましては、中間答申に向けた当部会でのとりまとめに入りたいと思えます。事務局にはその旨準備をお願いいたします。

それでは、案件(1)「交野市立第一中学校区の学校の在り方について」は以上とさせていただきます。

次の案件(2)「その他」についてですけれども、委員のみなさま、あるいは事務局から何かあれば出していただきたいんですけれども、どうでしょうか。

私の方から 1 点出しておきたいんですけれども、隣の枚方市で

も大きな課題になっているのが、留守家庭児童会室でキャパを越えている、学年を拡大してきているということももちろんあるんですけども、そこに登室している子どもがすごく多いと。それ以外でも学校規模でやはり 1 学年が 5 クラスとかになって、4 クラス 5 クラスとかになって、それなりの敷地が必要になってくる。私が一番思うのは、留守家庭児童会室の設置等も含めて、敷地面積はある程度必要だと思っているんです。

あくまで小中一貫ができれば 1,000 人程度の児童生徒数になってくる。あくまで小学校自体を考えたらすごく少ないんですけども、3 校あわせたそれぐらいになってくる。そういう中で少しでも敷地の拡張がこの折に可能ならと思っているんですが、そういう敷地拡張の検討をしていくということではいけないと思うんですけども、どうでしょうか。

委員

可能であれば、そういう意見も大事かと思います。やっぱり、統合すると今まで小学校だけでしたら、だいたい 4 年生くらいになると学童は卒業して家で自分で留守番ということだったんですけども、やっぱり場所があって友達もたくさんできれば、そういう場も今まで以上に必要になってくると思うんです。

部会長

そのあたりどうでしょうか。

事務局

今計画させていただいている敷地では、1,000 人を多少超えたところでも、9 学年の児童生徒数というのはボリューム的には入るというのは学校としては成り立つ計算はしたうえで整備に動いているところなんですけれども、ご意見いただきましたように、やはり放課後児童会の関係だとか、複合利用といった、地域の人に貸していきましょうというような、学校を地域拠点としてどんどん使っていきましょうという観点の中で行くと、やはり一定は、今ご意見をいただきましたように、もう少し広げられる可能性があれば、広げておいた方がいろんな使用方法が可能なのかな、という非常にメ

リットが高い魅力的な話だと考えます。

事務局

今、交野児童会、長宝寺小学校の児童会が、全体的に人数を出しているのが、今の市が保育所でお預かりしている子どもさんをそのまま小学校に行っても保護者が働かれるだろうということで算出しています。だいたい入ってくる子どももそれに近い数字で推移しているんですけども。具体的に人数を言いますと、交野児童会が、現在 144 名、長宝寺小学校の児童会が 36 名で今年度スタートしています。2つの学校を合わせますと、やはり 180 名くらいの人数です。

今保育所に行っている子どもの数を見ますと、年齢が下がるごとにこの数が増えます。例えば令和 5 年度、今から 4 年後の数を見ますと、交野の方では 199 名、長宝寺の方では 56 名という予想を立てています。合わせると 260 名を超える数です。

どこの市も子どもが増えず減ってる状況ですけども、女性の社会進出などもそういうところもあって、またこの 10 月からは保育料も無償化になるということで。それが拍車をかけていると考えています。今児童会の担当としてはその数を推計で持っています。

部会長

他によろしいでしょうか。

それでは、本日予定されておりました案件が終了いたしました。以上を持ちまして、第 2 回学校の在り方・適正配置専門部会を終了いたします。